

尾州の匠

ものづくりリレー

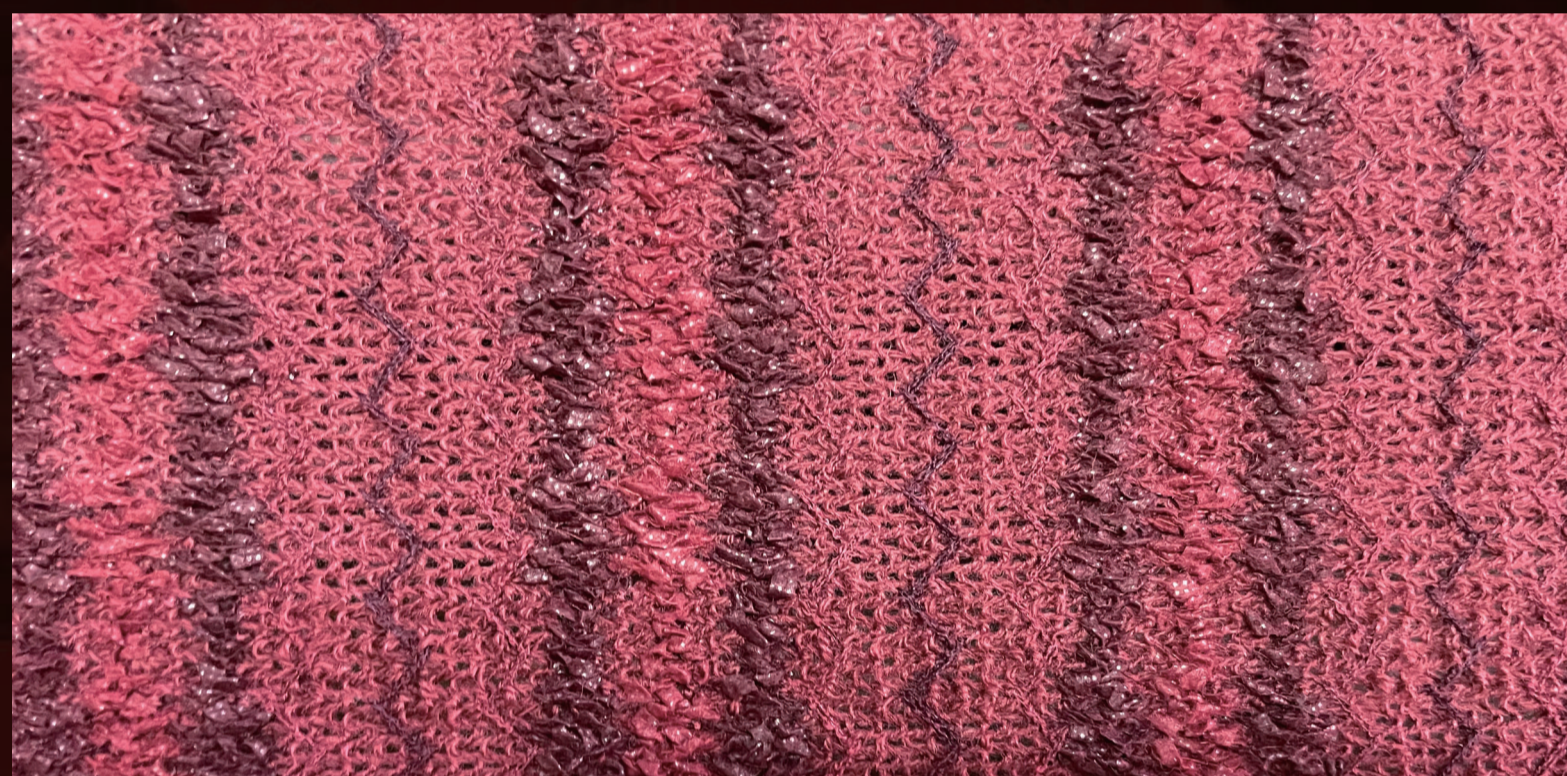
名古屋学芸大学
ファッション造形学科
于 愛佳

実習先企業様：木玉毛織株式会社

◆生地について

タイトル 「Rhodolite Garnet」

宝石のように輝く柘榴をイメージし、上品な配色と素材感で糸を経方向に連続して編み上げる経編機で編み上げました。



木玉毛織株式会社さんのアーカイブから気になった編み方の生地を見つけ、その布をサンプルに糸の配色を考えました。サンプルの生地や糸見本があっても、編み上がった生地がどのような仕上がりになるか想像出来ない生地づくりの難しさと同じ構造の編み方でも糸の太さ、素材感が変われば無限に表現できる可能性を持っているテキスタイルの魅力を知ることができました。

生地の編み上がりの際に、編む途中で糸が切れて生地に穴が空いてしまい、編み方を変更しなければならなくなっていました。実際の現場では、設計や糸の太さが考えられていても糸の太さや素材、機械など複雑な関係によって上手く編み上がらないこともあり、生地づくりの難しさを体感しました。



◆ものづくりリレーを通して

ものづくりリレーを通して、尾州を深く知ることができ、テキスタイルの新しい発見や面白さに気づくことができました。実習では番手や糸量の計算、工程、編み知識といった幅広いことを学ぶことができました。また、多くの工場見学もさせていただき、いろいろな分野の方から話を聞くことができたのは良い経験となりました。実際に1つの布を作り上げるには、設計から編み上がりまで考えなければいけないことが沢山あり、そこには経験と知識が必要であることを実感しました。

◆今後この活動をどう活かしたいか

将来、テキスタイルを自ら企画し提案できる仕事をしたいと考えているので、そこでものづくりリレーを通して学んだ多くの知識を活かしていきたいと思えます。